

9.令和6年度埼玉県てんかん地域連携体制整備事業活動報告書

埼玉医科大学病院小児科・てんかんセンター 山内秀雄

まとめ

1. 令和6年度に埼玉医科大学病院が実施したてんかん診療医療連携協議会開催、相談体制、治療体制、研修の実施、てんかん普及啓発事業、後援事業について報告する。
2. てんかん相談体制では、埼玉医科大学病院内に設置された「埼玉県てんかん相談窓口」で4名のてんかん診療支援コーディネーターによる総件数266件の電話相談を行った。また、日本てんかん協会埼玉県支部との共催で3回のインターネットによる公開相談会を開催した。
3. 治療体制としては、「埼玉県てんかん診療医療機関一覧」の年度改訂を行い、令和6年度末までに埼玉県ウェブサイトで公開する予定である。
4. 院内のてんかん研修では、てんかんセンターカンファレンスを計11回、特別講演会を1回を実施した。また、院外でのてんかん研修として、てんかん診療コーディネーター4名が全国てんかん対策連絡協議会てんかん診療支援コーディネーター研修会に2回参加した。
5. 一般市民を対象としたてんかん啓発事業として、市民公開講座や難治性てんかん・難病希少疾患の啓発イベント、パープルデーの開催を各1回開催した。YouTubeにおいて埼玉医科大学病院てんかんセンターチャンネル開設し啓発事業の動画公開を行った。さらに、埼玉県内の学校教員・校医のためのてんかん教育講座を1回開催した。埼玉県学校保健会が設置した緊急時の医薬品投与等に関する参考資料作成委員会に参加しててんかん発作時の医薬品投与に関する研修資料（講演動画）を作成した。

1. 緒言

平成30年（2018年）11月1日に埼玉医科大学病院は埼玉県てんかん地域連携体制整備事業埼玉県てんかん診療拠点機関に指定された。実務は同院てんかんセンターが行い、院内運営委員会（年6回開催）によって運営されている。当センターは「学際的包括的連携による医療と福祉の理想郷を実現するため、高度なてんかん医療を提供する基幹施設として地域医療に貢献する」ことを理念とし、以下の基本方針と持っている。

- 1) 患者さんの幸せのために安心して質の高いてんかん医療を実践し、地域医療に貢献する
- 2) 高度なてんかん医療を提供する地域基幹施設としての役割を果たし、関連施設との連携を行う
- 3) 人格的にすぐれ高い技能を持つ人材を育成し、診療に役立つてんかん研究の推進に努める

これらの方針に基づき、令和6年度に本院が実施した埼玉県てんかん地域連携体制整備事業を報告する。

2. 令和6年度事業計画

令和6年度埼玉県てんかん地域診療連携協議会（以下、協議会）において、山内秀雄が協議会長に就任し、議長を務めた。協議会の委員は表1に示される通りである。令和6年4月22日に開催された協議会では、令和5年度埼玉県てんかん診療拠点機関事業の報告が行われた後、令和6年度の事業計画案が提案され審議された。提案内容の概要は以下の通り。

- 1) てんかん相談体制として、「埼玉県てんかん診療相談マニュアル」に基づき、てんかん電話相談を実施すること、またウェブ上で公開てんかん相談会を行うこと。
 - 2) てんかん治療体制として、令和5年度版「埼玉県てんかん診療医療機関一覧」の作成。
 - 3) てんかん研修の実施として、てんかんセンターカンファレンス症例検討会（毎月1回）、てんかん診療コーディネーター研修会（年2回）への参加。
 - 4) てんかん普及啓発事業として、てんかんセンターカンファレンス特別講演会（年1回）、てんかん市民公開講座（年2回）の開催、学校教職員・校医を対象としたてんかん教育講演の実施、そしててんかんセンター・難病センター合同啓発イベントの開催。パープルデーキャンペーン開催、埼玉県ウェブサイト、埼玉医科大学病院・同院てんかんセンター、Twitter、Facebookなどからてんかん相談・啓発事業の案内と報告、YouTube専用チャンネルからの講演会動画配信、等。
- 上記の提案内容は審議され、承認された。

表 1

氏名	所属及び役職名
山内 秀雄	埼玉医科大学病院 小児科教授・てんかんセンター長
渡邊 さつき	埼玉医科大学病院 神経精神科准教授
中澤 望美	埼玉医科大学病院 看護部看護師 てんかん診療支援コーディネーター
佐藤 祐子	埼玉医科大学病院 看護部看護師 てんかん診療支援コーディネーター
落合 卓	おちあい脳クリニック 院長
浜野 晋一郎	埼玉県立小児医療センター 神経科
中本 英俊	TMGあさか医療センター 脳神経外科部長・てんかんセンター長
相川 博	大宮西口メンタルクリニック 院長
横田 淳一	埼玉県保健医療部 健康政策局長
鈴木 久美子	埼玉県保健医療部疾病対策課 課長
丸山 浩	埼玉県川越市保健所 保健所長
福田 守	日本てんかん協会埼玉支部
高山 久雄	てんかん患者さんのご家族、日本てんかん協会埼玉支部
丸木 雄一	埼玉県医師会 常任理事、埼玉精神神経センター 理事長

3. 実施内容

1) てんかん相談体制

①埼玉医科大学病院内に設置された「埼玉県てんかん相談窓口」において「てんかん診療相談マニュアル」に基づき、4名のてんかん診療コーディネーター（佐藤祐子、中澤望美、坂本綾佳、加藤加奈子）による総件数266件の電話相談を行った。相談内容としては、治療薬の調整に関する最も多く107件であり、次いで検査・疾患に関するものが122件、妊娠などに関するものが23件、その他14件であった。

②インターネットによるてんかん相談会「埼玉県てんかんなんでもウェブ相談会」を日本てんかん協会埼玉県支部との共催で3回開催した（令和6年6月15日、9月21日、12月21日）。相談役は埼玉医科大学病院小児科山内秀雄・松本浩、精神科渡邊さつき、脳神経外科平田幸子・高島和彦、おちあい脳クリニック落合卓が担当した。

2) てんかん治療体制

①埼玉県内てんかん診療機関、治療レベル、診療連携状況を把握するための「埼玉県てんかん診療実態調査」を実施した。調査結果に基づき「埼玉県てんかん診療医療機関一覧」の改訂を行い令和6年度末までに埼玉県ウェブサイトで公開予定である。

3) てんかん研修の実施

①医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、医学生を対象とするてんかんセンターカンファレンスを計11回と特別講演会を1回開催した（表2）。オーガナイザーは伊藤康男（脳神経内科）、事務担当は颯佐かおり（小児科）が担当した。

表 2

53	2024年4月12日	脳神経内科	見上真吾・岡田真里子	痙攣重積を引き起こしたMELASの1例
54	2024年5月10日	脳神経外科	平田幸子	頭蓋内脳波記録を用いて、右側頭葉てんかんの焦点同定を行った症例
55	2024年6月14日	神経精神科	渡邊さつき	扁桃体腫大を伴う左側頭葉てんかんの一例
56	2024年7月12日	小児科	小泉紗友里・寺西宏美	集中治療を要している難治頻回部分発作重積型急性脳炎疑い例
57	2024年8月9日	脳神経内科	岡田真里子	繰り返す変形視と拍動性頭痛を呈した後頭葉皮質静脈奇形の一例
58	2024年9月20日	脳神経外科	高島和彦	診断に難渋する運動誘発性発作の一例
59	2024年10月11日	神経精神科	木村理沙	テレビゲーム中に発作が生じる10代男性
60	2024年11月8日	小児科	松本 浩	新生児てんかんの1例
61	2024年12月13日	脳神経内科	山口智子	急に「眼の前の物が迫ってくる！」と訴えはじめた63歳男性例
62	2025年1月10日	神経精神科	木村理沙	記憶障害を主訴に精神科外来を受診した側頭葉てんかんの一例
63	2025年2月14日	特別講演会	脳神経外科担当	難治性てんかんへのアプローチ update 脳神経外科 准教授 國井尚人先生
64	2025年3月14日	小児科	寺西宏美	ウエスト症候群の1例

②院外でのてんかん研修としててんかん診療支援コーディネーター担当者（佐藤祐子、中澤望美、坂本綾佳、加藤加奈子）が令和6年度全国てんかん対策連絡協議会てんかん診療支援コーディネーター研修会に2回（令和6年7月21日、12月22日）参加し修了証が授与された。

4) てんかん啓発事業

1. 一般市民を対象とした啓発事業として、i) てんかん市民公開講座、ii) 長期療養児教室、iii) 難治性てんかん・難病希少疾患の啓発イベント、iv) パープルデー、v) てんかん啓発のためのYouTubeチャンネル開設を行った。

i) てんかん市民公開講座は令和6年5月18日に開催し、渡邊さつき、寺西宏美、高島和彦（埼玉医科大学病院神経精神科、小児科、脳神経外科）による講演が行われた。

ii) 小児慢性特定疾患や小児難治てんかんを持つ患者・家族・支援者を主な対象者として坂戸保健所・東松山保健所と共催で長期療養児教室を令和6年10月30日に開催した。山内秀雄（埼玉医科大学病院てんかんセンター長）、中澤望美（同、てんかん診療支援コーディネーター）による講演の後、受講者、講演者と保健所職員による座談会が開催された。

iii) 難治性てんかん・難病希少疾患の啓発イベントでは埼玉医科大学病院内てんかんセンターおよび同難病センター（埼玉県難病診療連携拠点病院）合同企画として「難治てんかん・稀少難病疾患に関するポスター展示会」を令和7年2月10日～29日に開催した。開催期間は毎年2月の第2月曜日が世界てんかんの日に指定され、また2月末日が稀少難病の日であることが開催期間の主な理由である。ASrid (<https://asrid.org/>) より提供される希少難病に関するポスターパネル、てんかんセンターから難治てんかんに関するポスターパネル、難病センターから希少難病に関するパネルの院内提示を行った。さらに同企画記念講演会として「難治性疾患の予防と新しい治療」というテーマで埼玉医科大学病院医師ら3人の講演者による講演会が令和7年3月8日に開催された。即ち、①「てんかん発作がなかなかおさまらないとき、どんな検査や治療があるかを知ろう」平田幸子（脳神経外科）、②「小児の神経筋疾患の最新治療 エクソン・スキッピングについて」松本浩（小児科）、③「膠原病患者における妊娠を考えた治療と管理」舟久保ゆう（リウマチ膠原病科）。

iv) パープルデーは令和7年3月26日～29日に埼玉医科大学病院てんかんセンター外来に専用ブースを設置して開催され、てんかん啓発ポスター掲示、医師看護師をはじめとするてんかんセンタースタッフの紫色Tシャツ・パープルデーピンバッジの着用、記念クッキーの配布などを行った。

v) てんかん啓発のためのYouTube「埼玉医科大学病院てんかんセンターちゃんねる」の開設を行い、過去3回分の市民公開講座で行った講演記録から10分から15分程度に講演動画を編集作成し配信を行った。配信前には病院内で第三者委員会による個人情報保護に留意した厳重な検閲を行った。

2. てんかんに携わる職種対象とする啓発事業として県内小中高等学校及び特別支援学校の教職員・校医、市町村教育委員会及び教育事務所の職員を対象としたてんかん研修会「現場で役立つ小児てんかんの知識 ～発作時の口腔用液ブコロムの使用方法を中心に～」を埼玉県教育委員会共催、埼玉県医師会・埼玉県医師会学校医会後援で令和5年10月23日に開催した。参加者は154名であった。さらに、埼玉県学校保健会が設置した緊急時の医薬品投与等に関する参考資料作成委員会に参加し、てんかん発作時の医薬品投与に関する研修資料（講演動画）を作成した。

4) まとめ

令和6年事業計画で企画した内容をほぼ達成することができた。また予定されていた企画以外に、埼玉県内保健所との共催で小児慢性疾患・難治てんかんに焦点を当てた啓発事業、埼玉県学校保健会の企画でてんかんに携わる教職員に対するてんかん啓発のための教育動画を作成した。てんかん啓発には従来のような対面式の啓発活動に加え、ITを利用した事業を行うことが多くなり、今年度はYouTube専用チャンネルを設置し講演の動画配信を行った。来年度も引き続きそれぞれの優れた点を考慮しながら、埼玉県内におけるてんかん診療のすそ野を広げ、てんかんの啓発をさらに進める予定である。